

市長	副市長	部長	課長	課長補佐	係長	係	記録

(供覧) 総務課

【所属名：総務部企画財政課】
【会議名：平成28年度第1回行政改革推進委員会】

■開示
一部開示 (理由: 条例第 条第 号 該当)
不開示
時限不開示 (開示: 年 月 日)

会 議 録

作成日 平成28年7月22日

日	平成28年7月22日	時間	13:30~15:02	場所	糸魚川市民図書館 3階会議室
件名	第3次糸魚川市行政改革大綱について ・構成案について ・現状と課題について ・今後の予定について				
出席者	【出席者】 山澤清臣会長 磯谷祐一副会長 古畠孝俊 北村雄一 大貫慶一 古田昌司 早川正明 松澤高志 森川孝智 猪又洋子 八木章 (11人) 【事務局】 総務部：金子部長 企画財政課：藤田課長 有水補佐 嵐口係長 猪又係長 古平主査 総務課：山本課長 杉原係長 大西係長 仲谷係長				
	傍聴者定員	一人		傍聴者数	0人

会議要旨

1 開会 (藤田課長)

平成28年7月1日付で、青海地域支館連絡協議会から選出の渡邊秀幸委員から古畠孝俊委員に代わった。(事務局も4月1日付の人事異動で代わったので、自己紹介)

2 会長あいさつ

3 協議事項

(1) 糸魚川市第3次行政改革大綱について

【事務局】資料により説明。(要旨は次のとおり)

・今後の予定について

事務局：先に今後の予定について説明します。第2次大綱の実施計画の進捗状況とこれまでの取り組みの検証、計画期間の成果と課題、達成度等については確認作業中のため、まとまりしだい報告を行う。29年度からの第3次大綱と実施計画の策定については、29年2月を目途に市長へ答申いただきたいので、9月以降の推進委員会で詳細な審議をお願いしたい。

・構成案について

事務局：第3次大綱の構成案(資料1)について、今回は目次概要にとどめ、具体的な事業内容は次回以降の委員会で説明します。基本構成として、(1)現状と課題の整理を①から④の項目を中心に整理したい。(2)基本方針は、第2次大綱から引き続き「コスト・スピード・

成果を重視した行財政運営」を考えている。(3)推進項目と(4)推進方法も項目的に網羅されていることから第2次大綱を基本に精査していく。(4)の①計画期間は、見直し時期を第2次総合計画と整合を図るため、29年度から33年度の5年としたい。実施計画については、スピード感のある取組みとなるよう重点事項を中心に成果・達成度が分かるよう工夫したい。

・現状と課題について

事務局：第3次大綱の基本部分が第2次総合計画（資料2）に盛り込まれており、整合を図りたい。第2次総合計画の策定においては、審議会やパブリックコメント等を経て、現在、精査しており、9月議会へ提案する予定である。第2次総合計画では、第2次大綱までの取組みを踏まえ、政策分野別の取組みを支える健全な行財政運営が重要となることから、項目の一部とせず「総合計画推進に向けた行財政運営」として位置付けている。

【質 疑】

委員：今回は、第2次総合計画と第3次大綱のどちらが主となるか。

会長：あくまでも第3次大綱であるが、第2次総合計画とリンクしているので、両方の意見をお願いしたい。

事務局：行政改革の部分を中心とするが、せっかくの機会であるので行政改革以外についても意見を伺いたい。

委員：総合計画の各種資料を読んだうえで、たくさんある中で絞り込んだ2つを盛り込んでいただきたい。

1つは、若者の支援で「10代から30代まで切れ目の無い支援」が必要であるが、項目的に切れている部分がある。具体的には1番目として今後、高校の再編があり、企業ニーズを聞きながら進学校、就職校、特殊校に再編されると思うので、その部分で言葉が足りないので行政改革に入れていただきたい。2番目は、糸魚川市の人口を減らさないためには、大学進学後の就職情報の把握が必要である。3番目は、0歳から2歳児の保育について、具体性が無く、併せて出産後の再就職支援も必要である。13、4歳から39歳の生活基盤が良くなれば、地域の減少対策と考える。

2つ目は、雇用の増加と経済の向上について、各論が無い。主に商工関係を考え、市の統計を10年前と比べると、製造品出荷額はほぼ横ばい、商品販売数は減少、観光入込数は増加している。経済の向上の中では、ジオパークの効果で観光面では従来の方針で十分だが、商業と工業をどうするか、総合計画では個別計画を作らないこととなっている。具体的な計画が決まっていないので、行政改革で取り上げていただきたい。

事務局：ご意見のあった2つについて、危機的に捉えている。1つ目の「10代から30代まで切れ目の無い支援」については、教育面では0歳から18歳までの子ども一貫教育があるが、その先の雇用につながる部分については、教育委員会だけでなく雇用担当の産業部でも教育との連携も考えており、キャリア教育の取組み強化に努めている。ハローワークでは高卒者の就職先は分かるが、大卒者は就職活動の形態の違いから把握が難しく、担当課でも大卒者の就職情報の追跡調査を考えている。その情報把握ができれば、様々な事業展開が望める。

保育については、保育園の民営化、適正配置について、行政改革の実施計画にも掲げて

いる。現在、0歳から2歳児の保育は、需要が増えており、今春の1歳児は5割を超え、入園率は上がっているが出生数が増えていないため、定員内で受入れてきている。出産後の再就職についても、生活優先の思いが強く、働く時間と育児の時間のバランスも重視していることから、どのような働き方が良いのか具体的な方向性を出したい。

委員 : 民間の正社員でも1年で働きに出なければならない実態を頭においてもらいたい。0歳から2歳児の保育が充実し、雇用面でも支援されれば住みよい糸魚川になるかと思う。

事務局 : 0歳から2歳児の保育は、ほぼ100%受け入れている。ただ、希望する園に集中するため定員オーバーとなり、他の園にまわってもらうケースがあるが、都会のように受入できない状況ではない。

事務局 : この4月から民営のひまわり保育園が開設され、0歳から2歳児のみを受け入れている。社員のお子さんを預かる事業所内保育所の位置づけだが、地域のお子さんを受け入れている。

会長 : 今後の検討の中に含めてもらうということをお願いしたい。

会長 : 構成案の中で(1)現状と課題の整理の②市民との協働、(3)推進項目の⑤市民と行政の役割分担の再構築、(4)推進方法の②推進方法の市民の理解と協力となっているが、市から市民へどのように下りてくるのか触れられていない。根を張っていない組織(地域)は弱く、災害時の支援・避難の負担が大きい。

また、地域づくりプランの取組みが全体的に進んでいないように感じる。地域振興協議会のような実際に活動できる組織が必要でないか。地域が動きやすい形を示唆して引っ張ってもらわないと全市民の同意とならない。

事務局 : 行政の事務事業の全般に言えることだが、行政だけのもの、市民と一緒にやるもの、行政でなく民間でやってもらうものもあり、そういう意味で「市民との協働」をうたっている。何を市民との協働で行うかを明確にするため、推進項目で「市民と行政の役割分担」をあげている。役割分担が明確になっても「市民の理解と協力」がなければ進まないの、そういう流れで項目を入れている。そういった中で、市民との対話が不足していると感じている。

1つの手法として地域づくりプランがあるが、地域がその気にならないとやらせ感では良いプランにはならない。行政はプラン作成の支援の形で各地域に職員が入っているが、役員等の一部の方だけでなく、地域住民全体を巻き込んでいくように進めている。上南地域が最初で、その後、5、6つのプランが出来上がり、作成中のものが2、3つあるが、青海地域や糸魚川地区が進んでいない。今回、糸魚川地区の地区懇談会を1か所から3か所に分けて行い、少しずつ意識の醸成を図り、地域づくりプランに進めたい。ただ、全地域で地域づくりプランを作ってもらいたいが、行政で強制する形では進めたくない。

会長 : 動きがとれる範囲の自治会の掘り起こしをやっていただきたい。糸魚川地区では目的や流れが一つになっていない。中山間地と市街地、地域間の違いもあるが、一貫性があるよう行政で整理してもらいたい。

事務局 : 地域づくりは、自治会、地区等の歴史や風土の違いがあり、中山間地と市街地の一律的な地域づくりはできないと考える。肝心なのは、大きなプランでなく、地域の住み良い身近な取組みが地域づくりの原点ではないかと感じている。その取組みを話し合うことが簡単そうで一番難しいところだと思っている。

副会長 : 例えば P13 の子ども一貫教育の更なる充実では、文章は間違いなく全て網羅されているが、一つ一つ点検していくと、例えば家庭での英語教育の場合、できる家庭はわずかしかないと思う。地域プランの中で、公民館等を活用しながら地域で学習の面倒をみていくことも考えられるが、各論になると総じていろんな問題が出てくる。そのような中で各地域がつまづいているのが現状でないか。

総合計画の文章に落ち度はないが、各論になるとどうやって実施するのかという話になる。例えば小学校の校長先生と話す中で、良い取組みなので地域でやってくださいとなると地域の財政がまかなえるかとなると難しくなる。

会長 : 今の話は、コミュニティスクールになるが、現在、糸小とひすいの里がスタートしており、次の候補に磯部小と田沢小と聞いている。コミュニティスクールは、地域と学校の連携するものだが、いじめの問題にも入りこむと聞いている。地域の土台作りとは違うが、話が進んでいけば、問題等を地元と一緒にやって答えを出すことになる。

副会長 : この話をしたのは、私のいる公民館は、人口構成で高齢化率が低く子どもが多く、夏祭りでたくさんの子供が来る。昨年で 300 人程、今年は 350 人程にのぼる。何とか子どもを地元引き付けるには教育だという話をしている。

委員 : 先日、能生の祇園祭があったが、学校の都合で実施日がずれて、祝儀（児童の活動費になっている）がもらえなかったことがあり、地域と学校との話し合いが足りないと思う。また、町外の方も参加されており、町内の方だけでは祭りが難しくなっているの、周りの応援も大事だと感じた。

委員 : 第 2 次大綱の推進項目にチーム糸魚川の推進があったが、実施計画には載っていない。大綱にあるものをフォローする仕組みにしていきたい。

事務局 : チーム糸魚川は、26 年改訂に大綱に組み入れたが、全体のチームワークを高め、糸魚川の愛着形成の理念であり、実施計画に組み入れるには難しかった。ご意見を参考に第 3 次大綱を策定する中で、どのような取組みにしていくか精査していきたい。

委員 : 「30 年先」の言葉が、第 2 次総合計画の基本構想をはじめ、多く使われており、26 年から出てきた。

事務局 : 市長の公約もあるが、地方創生の取組みの中で人口減少対策は 5 年、10 年で完結するものでなく、30 年、40 年の先を見ながら対応していく必要があるの、最近意識して「30 年先」を使用している。

チーム糸魚川の推進については、今回、第 3 次大綱の策定を進める中で、行政改革での位置付けをどうするか、迷っている。行政改革は、行政自ら粛々と進める改革と政策的に進める改革があると思っている。政策的な改革は、別の個別計画（総合計画の実施計画など）に揚がっており、二重の計画となってしまうので、整理した中で実施計画を作りたい。

会長 : いただいた意見を参考に大綱に盛り込んでいただくということでお願いしたい。

(2) その他

特になし

4 その他

【事務局】 猪又係長から次回開催の日程について

事務局 : 次回以降の推進委員会は、9月以降に3回ほどを予定している。具体的な日時、議題については、会長・副会長と日程協議のうえ、各委員へ通知する。

5 閉会 磯谷副会長あいさつ (15:02 閉会)